

1 単元名 政府の役割と国民の福祉

2 目標

- 公債残高の増加や少子高齢社会における社会保障の在り方などの財政上の課題について関心を持ち、意欲的に話し合いに参加している。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について、財源の確保と配分や、対立と合意、効率と公正などの観点から、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができる。 (社会的な思考・判断・表現)
- 財政に関する統計資料などを、新聞記事やインターネット等を通して基に収集・選択し、読み取ったことや考えたことを分かりやすくまとめることができる。 (資料活用の技能)
- 公債残高の増加や少子高齢社会における社会保障の在り方など、財政上の課題のあらましについて理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領公民的分野の内容「B 私たちと経済」における中項目「(2) 国民の生活と政府の役割」の「イ (イ) 財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し表現すること」をねらいとしている。政府が行う経済活動が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、様々な年齢や職業の人々の立場になって考察し、表現させたい。

(2) 生徒の実態

実態調査 (自由記述・複数回答可・人数は延べ人数)

(実施日 11月22日 計\*人)

① 政府が行っている事業やサービスには、どのようなものがありますか。 土木・建築関係 *人 教育・保育関係 *人 消防・警察 *人 造幣 *人 公共事業 *人 わからない *人
② 不景気の時に政府ができることとして何が考えられますか。 増税をする *人 物価を上げる *人 お金を支給する *人 企業を減らす *人 仕事を増やす *人 人口を増やす *人 わからない *人
③ なぜ、消費税が10%に上がったのだと思いますか。 お金がないから *人 無駄遣い *人 高齢化 *人 年金 *人 人口減 *人 わからない *人

レディネステストの結果、社会資本の整備や公共サービスの提供について、少なからず認識できている生徒が多いことが明らかになった。一方で、不況時の政府の対応については、「増税」や「わからない」といった回答が多く見受けられた。生徒は政府の財政難を感覚的に理解していると考えられる。生徒のイメージを大切にしつつ、「大きな政府」や「小さな政府」といった国の在り方を考える機会としたい。

(3) 指導観

お金は生徒にとって身近で関心の高い存在である。しかし、税金として政府が使うとなると遠い存在のものになってしまう。本単元では、政府の財政活動が身近な生活に関わっていることや、景気の安定化などにも影響を与えていることを理解させ、税を身近な存在にしたいと考える。そして、政府の財政状況を大観して、これからの日本が「小さな政府となるのか大きな政府となるのか」を多面的・多角的に考察し、意見交換する活動を通じて、公民的資質の育成につなげたい。

4 指導計画 (20時間扱い)

第1次 消費生活と経済	4時間
第2次 生産と労働	4時間
第3次 政府の役割と国民の福祉	4時間

時	学習内容	評価規準
1	私たちの生活と財政	税金の公平な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。(思考・判断・表現)
2	政府の役割と財政	公債の発行について、納税者などの様々な立場から多面的・多角的に考察して、公正に判断し、自分の考えを表現している。(思考・判断・表現)
3	社会保障の仕組み	社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましについて理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
4	少子高齢化と財政	少子高齢化の進展と社会保障の現状について、新聞記事やインターネットなどを基に資料を収集・選択し、的確に読み取っている。(技能)

第4次 価格の働きと金融 . . . . . 5時間

第5次 これからの経済と社会 . . . . . 3時間

5 本時の指導

(1) 目標

- 公債の発行と政府の財政政策について、納税者や企業などの様々な立場から多面的・多角的に考察して、公正に判断し、自分の考えを表現できる。(思考・判断・表現)

(2) 準備・資料

- ・教科書、資料集、ノート、ホワイトボード、マーカー、ワークシート

(3) 展開

◎個への手立て 評価

学習活動・内容	主な支援と評価
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>政府はどのような分野にお金を使っているのだろう。</p> <p>2 政府の経済活動について、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道社会資本の整備や社会保障、雇用対策などを行う。</li> <li>・ 景気の安定を図る。</li> </ul> <p>3 企業・家計・政府の立場になって好不況時の財政政策についてシミュレーションする。</p> <p>政府はどのようにすれば、景気を安定させることができるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 好況時…お金が多くなりすぎてしまう。バブル経済になってしまう。</li> <li>・ 不況時…家計と企業にお金が入らない。国債を発行して、公共事業などを行う。</li> <li>・ 課税額をコントロールすることで景気の安定を図ることができる。</li> </ul> <p>4 本時のまとめをする</p> <p>政府は社会資本と社会保障、景気の安定化にお金を使っている。好況時は増税をして景気の過熱をおさえている。また、不況時には公共事業を行ったり、減税をしたりして景気の安定化を図っている。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府が減税や増税を行い、景気を安定化させている。</li> <li>・ 民間では儲からないことにお金を使っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の発表をつなぎながら学習への意欲を高める。</li> <li>・ グループ間の話し合いが進むように補助発問をする。</li> </ul> <p>◎ 机間指導を行いながら、ワークシートへの記入が困難な生徒に対して支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬通貨と課税、納税、労働、サービスと書かれたカードを準備し、交換することで、お金の流れを可視化できるようにする。</li> <li>・ 企業・家計・政府の立場になって、どのようにすればお金の流れが途絶えないか、どのようにすれば自己のそれぞれの利益を最大化できるかを考えることができるようにする。</li> </ul> <p>◎ 発問を通じて、好不況時の財政政策について、課税を通じた景気への対応ができるに気づかせたい。</p> <p>㊦ 政府の財政政策について、課税と公共事業の語を用いて論理的に説明している。 (思考・判断・表現 ワークシート)</p>